



副会長挨拶

これからの水コンサルタントに向けて

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会 副会長 **本名 元**
(日本水工設計株式会社/代表取締役社長)



1. はじめに

2019年6月より全国上下水道コンサルタント協会(水コン協)の副会長を拝命いたしました本名元です。

微力ながら会員各社並びに関係する皆様の一層の繁栄と、魅力ある水コンサルタントの実現に向けて尽力してまいりますので、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本稿では、上下水道を取り巻く環境が劇的に変化している現在の状況下で、私自身の経験を踏まえながら、新たな時代の要請に応えることのできる水コンサルタントになるために取り組むべきことをまとめてみました。

2. 上下水道の動向

私が仕事を始めた当時は振り返ると、上下水道はまさに建設の時代であり、長期にわたる大規模な投資に自治体も悩んでいるなか、官と民が一緒に汗を流し、手作りで将来を見据えた計画づくりを進めていた時代でした。

その後、上下水道は、管路や浄水場・処理場といった施設整備を急速に進めることで高普及率を達成し、施設整備の促進によって蓄積された膨大なストックを適切に管理してサービスを持続する本格的なマネジメントの時代へと移行しつつあります。特に近年は、加速化する人口減少や多発する自然災害の激化・甚大化、PPP/PFIやグローバルな環境問題SDGsへの対応など、事業環境が大きく様変わりしています。

上水道分野における近年の動向として、2018年12月の「水道法改正」が挙げられます。これは、水道の基盤強化を目的として行われた改正であり、関係者の責務の明確化、広域連携の推進、適切な資産管理の推進、官民連携の推進、指定給水装置工事事業者制度の改善、の5つがポイントとなっています。これらに向け、官民一体となって取り組みを始めています。

下水道分野に目を向ければ、2017年8月に「新下水道ビジョン加速戦略」が策定され、官民連携の推進やマネジメントサイクルの確立、防災・減災の推進など、選択と集中により国が5年程度で実施すべき重点項目と基本的な施策が打ち出されました。この加速戦略については、

概ね3年後を目途に見直しを行い、さらなるスパイラルアップを推進するものとしています。

こうした上下水道の課題を解決し、方向性を考えていくうえで、水コンサルタントは、これまで以上に期待され、その役割もより広くかつ大きくなるものになると考えています。

3. 水コン協の取り組み

上下水道の動向を受けて、水コンサルタントの仕事は、大きく変化しています。水コン協では、これらの変化を見通し、2015年5月にビジョン「AWSCJ Vision 2015-2025」を策定し、2019年5月には「第二期中期行動計画」を策定しています。この第二期中期行動計画では、ビジョンや第一期中期行動計画を踏まえて基本方針と行動内容を定め、水システムを通して地域・社会を豊かにすることや、業務領域の拡大、緊急時対応、官民連携支援、デジタル化対応等の10の主要行動を打ち出しています。

4. これからの水コンサルタントとして

上下水道を取り巻く環境が大きく変化しており、これらの変化に対応するため、我々水コンサルタントが取り組まなければならない課題は多様化しています。水コンサルタントが、今後も発展し続けるためには、高度な技術力を基盤とした豊かな発想力と想像力で、多様化した課題に取り組まなければなりません。

このような状況に対応し、魅力ある水コンサルタントに進化するためには、以下に示す事項に取り組み、実践していくことが重要と考えています。

(1) 多様なニーズに対応する

かつての上下水道事業は、普及促進を中心に事業を進めていたため、水コンサルタントは、施設整備に係る計画・設計業務を中心に取り組んでいました。しかしながら、近年の事業環境の変化により、様々な技術力が求められるようになってきました。例えば、整備された施設は、経年劣化により老朽化が進むため、ストックマネジメントにより計画的かつ効果的な改築更新や維持管理を進め

ていく必要があります。また、近年の激甚化する降雨や頻発する大規模地震を踏まえ、計画規模を超える事象に対して、ハード・ソフト両面から、浸水対策や地震対策を講じることが求められます。さらには、上下水道施設から得られる水・汚泥・エネルギー等の資源を有効活用するため、消化ガス発電や汚泥の固形燃料化など、地域のエネルギー供給拠点化等にも取り組むことが求められます。

運営面に目を向けると、包括的民間委託やDBO、コンセッション方式の導入、ヒト・モノ・カネを一体的に考えるアセットマネジメントの展開、スケールメリットを生かして施設やシステム、事務等の広域化・共同化を図るなど、事業運営の効率化に向けた様々な施策にも総合的に取り組んでいくことが求められます。

これからの水コンサルタントは、このように複雑化・多様化していく上下水道事業に対応していくため、様々な技術の知識やノウハウ、ツールを習得し、その技術力を発揮して、地方公共団体等のニーズに適切に対応していくことが重要だと考えています。

(2) 総合力を発揮する

事業環境を見渡すと、上下水道事業は、PPP/PFI、経営改善、資源利用なども含めた高度かつ総合的な提案が求められる時代になっています。水コンサルタントは、そのニーズに合わせ、技術・経営両輪の体制へシフトしていく必要があると考えています。具体的には、これまでの経験を踏まえつつ、総合的な技術力を発揮していくことに加えて、上下水道事業の全体最適化や、事業の持続性確保を見据えた企画力や提案力、マネジメント力をこれまで以上に高めていく必要があります。

また、総合力を発揮するために、他分野との協働・連携にも取り組み、上下水道としてこれまで関わってきたフィールドを拡げていくことも重要です。そのためには、水コンサルタントが上下水道事業全体を技術面・経営面において主導的に引っ張っていくような、リーダーシップを発揮することが必要と考えられます。

今後は、水コンサルタントの役割や可能性を広く社会へアピールし、自らの価値を高め、水コンサルタントが総合力をより発揮できるように、活躍の場を拡げていくことも重要です。

(3) コミュニケーション能力を発揮する

水コンサルタントの仕事では、必ずしもマニュアルが用意されているわけではありません。特に、複雑化・多様化する事業環境においては、マニュアルのない世界で業務を進めていくことがより多く求められてきます。

このような状況においては、対話の中で事業の方針や方向性を見出していく必要があります。相手の声に耳を傾け、何を求めているかをしっかり理解して、一番必要

なもの迅速に提供・提案しなければなりません。これらを実に行っていくために必要とされるスキルが、「コミュニケーション能力」であり、水コンサルタントに求められるスキルの中でも特に重要と考えています。

コミュニケーションの問題を考える時、マサチューセッツ工科大学教授ダニエルキム氏が提唱した4つの質からなる『成功循環モデル』（「関係の質」→「思考の質」→「行動の質」→「結果の質」→「関係の質」に戻る）があります。これは人間関係の質が高まると、会話や対話、深い議論を通じて思考の質が高まり、新たなアイデアが生まれ、それに伴い行動の質が高まり、結果の質につながることを意味しています。そして、結果の質が向上することによる達成感によって、さらに関係の質が高まるという、活動を成功に導く循環モデルです。

多様な役割が求められるこれからの水コンサルタントにとっては、コミュニケーション能力を、これまで以上に向上させていくことが重要であり、そのためには様々な場面で「関係の質」を高めていきながら、4つの質を高めていくことが必要だと考えています。

(4) 働き方改革を実践する

我が国は、世界でも例のない極端な人口減少社会を迎え、人口構造が経済の重荷になる時期（人口オーナス期）に入っており、健康的な社会を形成するために、働き方改革が進められています。これは、水コンサルタントにとっても、今まさに取り組むべき重要なテーマとなっています。この働き方改革においては、生産性や付加価値（利益）を正しく理解することが重要です。

誰よりも時間当たりの生産性を意識し、自分の時間だけでなく相手の時間も尊重していく。相手が納得感をもって決定することを大切に、実体験に裏付けられた自信と技術とマネジメント力を持って自らの言葉で語っていく。困難な状況にあっても、常にポジティブに目的意識を忘れず、最適な解決策を常に問い直し、相手の課題解決に向かい続けていく。これらが、これからの水コンサルタントに求められる要件になっていくでしょう。

働き方改革が求められる時代に、コンサルタントとして持つべき心構えを大切に、実践する姿を見せていくことが、大事だと考えています。

5. おわりに

本稿では、これからの水コンサルタントとして取り組むべきことをまとめてみました。私自身、今日まで30年以上にわたり、水コンサルタントとして上下水道に従事してまいりました。その中で感じたことは、仕事を始めた当初と現在では、求められる内容が大きく変化したことであり、これからの変化はさらに大きなものになるであろうということです。

今年の6月14日には、近年の建設業を取り巻く環境の変化を受け、改正品確法（公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律）が公布・施行されました。今回の改正では、調査・設計の品質が公共工事の品質確保を図るうえで重要な役割を果たすものとして、「災害時の緊急対応の充実強化」、「働き方改革への対応」、「生産性向上の取組」、「調査・設計の品質確保」が同列で規定されています。調査・設計が本文に入ったことで、法的な面でも、水コンサルタントの役割と責務が明確にされています。

このように時代が大きく変化して、求められる内容が様変わりしても、上下水道が社会に対して果たすべき役割は、形こそ変え、その本質は、不変であると考えています。この考えに基づいて、これからも時代の変化を的確に捉え、上下水道を支えていくという誇りとプライドを持って仕事に取り組むことで、魅力ある水コンサルタントになることができると思います。

私も魅力ある水コンサルタントを目指して邁進する所存であります。これからの水コンサルタント及び水コン協をよろしくお願いします。